

## 受益者の皆様へ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。さて、「テンプレトン世界債券ファンド」は2016年6月20日に決算（限定為替ヘッジコース／為替ヘッジなしコースは第11期、毎月分配型・為替ヘッジなしコースは第65期）を行いました。当ファンドは主として世界各国（新興国を含む）の国債および政府機関債等に実質的な投資を行い、投資信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行います。当期につきましてもそれに沿った運用を行いました。ここに運用状況をご報告申し上げます。今後とも一層のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

## テンプレトン世界債券ファンド 限定為替ヘッジコース

第11期末（2016年6月20日）	
基準価額	10,043円
純資産総額	6,055百万円
第11期 (2015年12月22日～2016年6月20日)	
騰落率	-5.7%
分配金合計	10円

## テンプレトン世界債券ファンド 為替ヘッジなしコース

第11期末（2016年6月20日）	
基準価額	12,682円
純資産総額	6,508百万円
第11期 (2015年12月22日～2016年6月20日)	
騰落率	-18.7%
分配金合計	10円

## テンプレトン世界債券ファンド 毎月分配型・為替ヘッジなしコース

第65期末（2016年6月20日）	
基準価額	11,596円
純資産総額	592百万円
第11作成期：第60期～第65期 (2015年12月22日～2016年6月20日)	
騰落率	-18.6%
分配金合計	120円

(注) 騰落率は、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

# テンプレトン世界債券ファンド

限定為替ヘッジコース

為替ヘッジなしコース

毎月分配型・為替ヘッジなしコース

(愛称：地球号)

追加型投信／内外／債券

## 交付運用報告書

限定為替ヘッジコース／為替ヘッジなしコース

第11期（決算日 2016年6月20日）

作成対象期間：2015年12月22日～2016年6月20日

毎月分配型・為替ヘッジなしコース

第11作成期

第60期（決算日 2016年1月20日）

第61期（決算日 2016年2月22日）

第62期（決算日 2016年3月22日）

第63期（決算日 2016年4月20日）

第64期（決算日 2016年5月20日）

第65期（決算日 2016年6月20日）

作成対象期間：2015年12月22日～2016年6月20日



FRANKLIN TEMPLETON  
INVESTMENTS

フランクリン・テンプレトン・インベストメンツ株式会社

東京都港区六本木1丁目9番10号

<お問い合わせ先>

お客様ダイヤル

電話番号：03-6230-5699

受付時間：9:00～17:00

(土・日・祝日および12月31日・1月2日・1月3日を除きます。)

ホームページ：<http://www.franklintempleton.co.jp/>

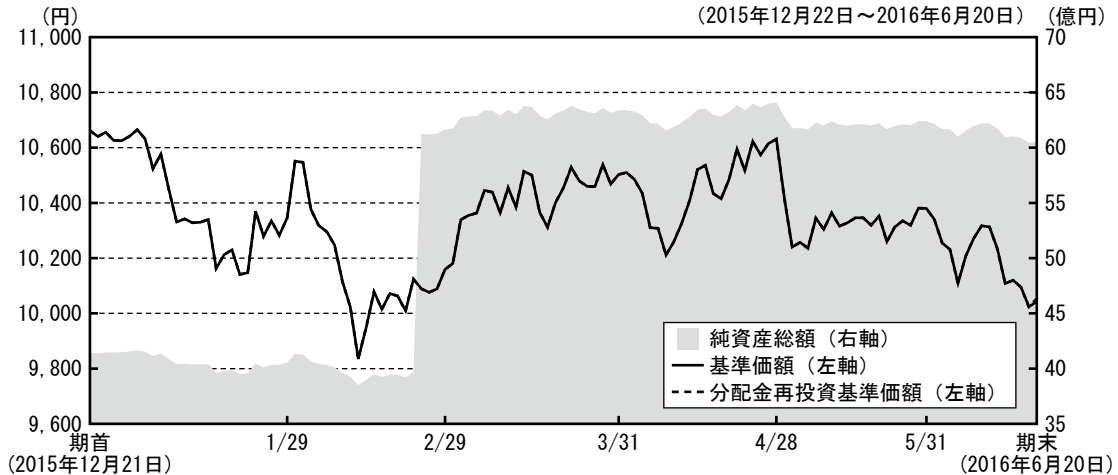
お客様の口座内容などに関するお問い合わせは、お申込みされた販売会社までお願い申し上げます。

- 当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。上記<お問い合わせ先>ホームページの「ファンド一覧」から当ファンドのファンド名称を選択することにより、当ファンドの詳細ページにおいて「資料・レポート」の中から運用報告書（全体版）を閲覧およびダウンロードすることができます。
- 運用報告書（全体版）は受益者のご請求により交付されます。交付を請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

## テンプレトン世界債券ファンド 限定為替ヘッジコース

### 運用経過の説明

#### ① 基準価額等の推移



第11期首：10,662円

第11期末：10,043円 (既払分配金10円)

騰落率：-5.7% (分配金再投資ベース)

- (注) 分配金再投資基準価額は、収益分配金 (税込み) を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入金額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 当ファンドが投資を行う投資対象ファンドは、特定のベンチマークを上回ることを目指して運用するものではありません。したがって、当ファンドもベンチマークを設定していません。

#### ② 基準価額の主な変動理由

基準価額の値下がり、は、主要投資対象である「フランクリン・テンプレトン・インベストメント・ファンズ・テンプレトン・グローバル・ボンド・ファンド Class I (Mdis) JPY-H1」 (以下、「JPY限定為替ヘッジ・クラス」といいます。) が値下がりしたことによるものです。この背景としては、主に以下の要因が挙げられます。

上昇要因：

- ・新興国通貨の一部 (ブラジルレアルなど) が米ドルに対し上昇したこと
- ・新興国を含む世界各国の国債、政府機関債等からの利息収入

下落要因：

- ・実質的に米ドルで売り建てしている通貨 (円、ユーロなど) が米ドルに対し上昇したこと
- ・新興国通貨の一部 (メキシコペソなど) が対米ドルで下落したこと

**3 1万口当たり費用明細**

項目	当期 2015年12月22日～2016年6月20日		項目の概要
	金額	比率	
(a) 信託報酬	55円	0.524%	(a) 信託報酬＝〔期中の平均基準価額〕×信託報酬率、期中の平均基準価額は10,447円です。 ファンドの運用、受託会社への指図、基準価額の算出、開示資料作成等の対価 購入後の情報提供、運用報告書各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価 ファンドの運用財産の保管・管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価
（投信会社）	(11)	(0.107)	
（販売会社）	(42)	(0.403)	
（受託会社）	(1)	(0.013)	
(b) その他費用 （監査費用）	0 (0)	0.004 (0.004)	(b) その他費用＝ $\frac{\text{〔期中のその他費用〕}}{\text{〔期中の平均受益権口数〕}}$ その他費用 ・監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合計	55	0.528	

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

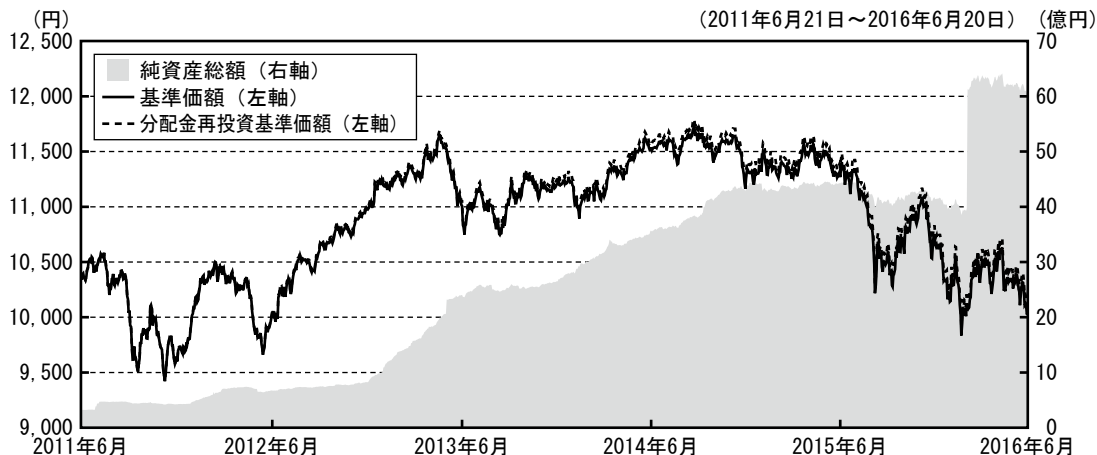
(注) 各金額は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各項目の費用は、このファンドが組入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。

当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」等が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示しております。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

#### 4 最近5年間の基準価額等の推移



(注) 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入金額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。

	2011年6月20日 決算日	2012年6月20日 決算日	2013年6月20日 決算日	2014年6月20日 決算日	2015年6月22日 決算日	2016年6月20日 決算日
基準価額 (円)	10,348	10,035	11,007	11,528	11,268	10,043
期間分配金合計(税込み) (円)	—	20	20	20	20	20
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	-2.8	9.9	4.9	-2.1	-10.7
純資産総額 (百万円)	320	671	2,401	3,566	4,433	6,055

(注) 当ファンドは、「フランクリン・テンブルトン・インベストメント・ファンズ-テンブルトン・グローバル・ボンド・ファンド Class I (Mdis) JPY-H1」および「日本短期債券ファンド(適格機関投資家限定)」に投資するファンド・オブ・ファンズです。ファンドの収益率を測る適切なインデックスが存在しないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

## 5 投資環境

### (債券市場)

当期、世界の債券市場では、世界経済の減速懸念や各国・地域の金融政策を巡る思惑などから投資家のリスク回避姿勢が強まり、期を通じて長期金利は全般的に低下（価格は上昇）しました。

米国の債券市場では、長期金利は低下しました。2015年12月に米連邦準備理事会（FRB）が実質的なゼロ金利政策を解除し、9年半ぶりに政策金利を引き上げたことを受け、10年国債利回りは期首の2.2%台前半から2.3%台前半まで上昇しましたが、追加利上げに対する不透明感から利回りの上昇は限定的となりました。2016年1月以降は、中東の地政学リスクや中国経済の減速懸念から世界の株式市場が大幅に下落し、投資家のリスク回避姿勢が強まりました。また原油安に伴う期待インフレ率の低下も利回り低下の圧力となり、10年国債利回りは2月半ばに一時1.7%を下回る水準まで低下しました。その後、原油価格の反発や中国経済に対する不安の後退などから10年国債利回りは3月半ばには一時1.9%台後半まで上昇しました。しかし、期末にかけて雇用統計などの一部主要経済指標に弱さが見られる中、利上げの時期を巡る不透明感や英国の欧州連合（EU）離脱懸念などを背景に、10年国債利回りは再び低下基調となり、期首を下回る1.6%台前半で期末を迎えました。

欧州では、欧州中央銀行（ECB）が金融緩和政策を継続する中、欧州金融機関の信用懸念、南欧諸国の政治リスクやギリシャの財政問題に対する懸念などから、長期金利は全般的に低下しました。

新興国の債券市場では、原油価格が2016年2月の底値から回復基調となったことを受け、投資家のリスク回避姿勢が後退したことから長期金利は全般的に低下しました。

### (外国為替市場)

当期、外国為替市場では、米ドルの対円相場は期首の121円台前半から期末にかけて104円台半ばまで下落しました。

期首、FRBが政策金利の引き上げを決定したものの、米国の金利上昇ペースが緩やかになるとの見方が台頭したことや資源価格の低迷等により、米ドルの対円相場は年末にかけ1米ドル120円台前半まで下落しました。2016年1月以降は、中国経済の減速懸念や原油価格の急落を受けた投資家のリスク回避姿勢による円買いが強まり、米ドルの対円相場は2月に一時1米ドル112円を下回る水準まで下落しました。その後、原油価格の回復などが一時的に米ドルの下支えになったものの、米国の追加利上げ観測の一段の後退や原油減産に向けた主要原油産出国の協議に対する不透明感などを背景に再び下落基調となりました。4月末には、米国の政策金利が据え置かれたことに加え、日本銀行（日銀）が追加の金融緩和政策を見送ったことを受け、米ドルの対円相場は1米ドル106円台前半まで急落しました。期末にかけては、それまでの急激な円高に対する反動やFRB高官の利上げを示唆する発言などにより、米ドルが買い戻される局面はあったものの、5月の軟調な雇用統計を受け利上げ観測が後退したことや英国のEU離脱に対する不透明感から、リスク回避の円買い需要が強まった結果、米ドルの対円相場は104円台半ばと期首を大きく下回る水準で期末を迎えました。

一方、ユーロは米ドルに対して堅調な展開となりましたが、対円では欧州中央銀行（ECB）による金融緩和政策の継続や円が対米ドルで円高となった影響を受けて軟調な展開となりました。期末にかけては英国のEU離脱に対する懸念から対円でさらに弱含みしました。新興国通貨はまちまちな展開となりました。

## 6 当該投資信託のポートフォリオ

(当ファンド)

運用の基本方針にもとづき、当期を通して、主要投資対象である J P Y 限定為替ヘッジ・クラスを高位に組み入れました。日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）については低位の組入れにとどめました。

(投資対象ファンド： J P Y 限定為替ヘッジ・クラス)

<国・地域配分>

－2016年5月末時点での主な配分は、メキシコ21.0%、韓国17.5%、ブラジル14.5%、マレーシア13.1%、インドネシア8.3%となりました。

<通貨別配分>

－2016年5月末時点での主な配分は、米ドル121.8%、メキシコペソ21.5%、マレーシアリング18.9%、ブラジルリアル14.5%、インドネシアルピア8.3%などを買建としました。一方で、ユーロ、円、豪ドルなどを売建としました。

<信用格付別配分>

－2016年5月末時点での主な配分は、投資適格70.6%、非投資適格22.8%、その他6.6%としました。

(投資対象ファンド：日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）)

主として日本短期債券マザーファンドを通じて、わが国の公社債・金融商品に投資し、信託財産の安定的な成長をめざして安定運用を行いました。

## 7 当該投資信託のベンチマークとの差異

当ファンドはベンチマークや参考指数を設けていないため、本項目は記載しておりません。

## 8 分配金

当期の収益分配につきましては、基準価額水準、市況動向等を勘案して次表の通りとさせていただきます。

なお、留保された収益の運用につきましては、特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行います。

### 分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり・税引前)

項目	第11期
	2015年12月22日～2016年6月20日
当期分配金 (対基準価額比率)	10 0.099%
当期の収益	10
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	1,845

(注) 円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金(税込み)に合致しない場合があります。

(注) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

## 今後の運用方針

### (当ファンド)

運用の基本方針にもとづき、JPY限定為替ヘッジ・クラス、および日本短期債券ファンド(適格機関投資家限定)へ投資を行います。JPY限定為替ヘッジ・クラスへの投資比率は高位を維持する方針です。

### (投資対象ファンド：JPY限定為替ヘッジ・クラス)

投資対象ファンドにおいては、引き続き金利上昇局面に備えたポジションを投資戦略の中核としています。そのため、今後もポートフォリオにおいては、デュレーション短期化の方針を維持すると同時に、米国国債のリターンと逆相関のパフォーマンスを実現するようなポートフォリオ運営を行う方針です。投資にあたっては、リターンに見合わない金利リスクを取ることなく、実質利回りがプラスとなるような投資機会を引き続き積極的に捉えていきます。また、経済のファンダメンタルズが堅調で、確固とした財政、金融政策を実行している国を見極め、選択的に投資する予定です。グローバル投資においては、多くの投資機会が結果が出るまでに時間を要することがあり、長期的な運用成果を得るためには短期的な値動きの荒い環境を乗り越える必要があります。世界の債券・通貨市場には、ファンダメンタルズに比べて過小評価された魅力的な投資機会が数多く見られます。たとえば、インフレ率が安定的に上昇し健全な経済成長を維持している一方で、現地通貨が経済ファンダメンタルズから見て割安な水準にあると判断した国の通貨等に選択的に投資していく予定です。

### (投資対象ファンド：日本短期債券ファンド(適格機関投資家限定))

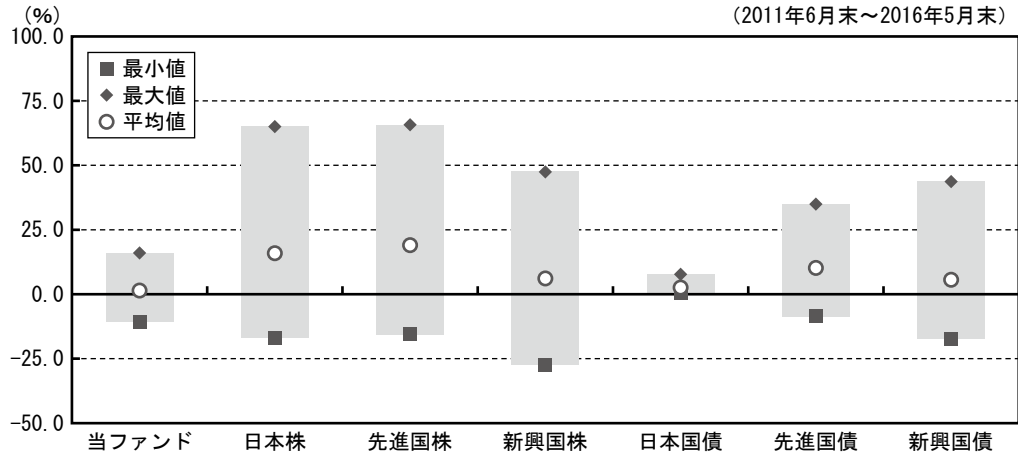
今後も引き続き、主として日本短期債券マザーファンドを通じて、わが国の公社債・金融商品に投資し、信託財産の安定的な成長をめざして安定運用を行う方針です。

## 当該投資信託の概要

商品分類	追加型投信／内外／債券	
信託期間	無期限	
運用方針	投資信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行います。	
主要投資対象	当ファンド	①フランクリン・テンブルトン・インベストメント・ファンズーテンブルトン・グローバル・ボンド・ファンドの円建て外国投資証券Class I (Mdis) JPY-H1 ②日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）の受益証券
	フランクリン・テンブルトン・インベストメント・ファンズーテンブルトン・グローバル・ボンド・ファンド Class I (Mdis) JPY-H1	世界各国（新興国を含む）の国債および政府機関債等
	日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）	日本短期債券マザーファンドの受益証券を通じてわが国の公社債、金融商品に投資
運用方法	主として、外国投資証券である「フランクリン・テンブルトン・インベストメント・ファンズーテンブルトン・グローバル・ボンド・ファンド（Class I (Mdis) JPY-H1）」への投資を通じて、世界各国（新興国を含む）の国債および政府機関債等を実質的な投資を行います。また、証券投資信託である「日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）」の受益証券への投資も行います。 外国投資証券への投資は高位（概ね信託財産の純資産総額の90%以上）を維持することを基本とします。	
分配方針	毎決算時（毎年6月および12月の20日（休業日の場合は翌営業日））に、基準価額水準、市況動向等を勘案して収益分配金額を決定します。 分配対象収益が少額の場合には分配を行わないことがあります。 留保益の運用については、特に制限を設けず、委託者の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。	



## 代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位: %)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
平均値	1.4	15.9	19.0	6.1	2.6	10.2	5.6
最大値	16.0	65.0	65.7	47.4	7.7	34.9	43.7
最小値	-10.8	-17.0	-15.6	-27.4	0.4	-8.6	-17.4

2011年6月～2016年5月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の平均・最大・最小を、当ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示したものです。

(注) すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

### 《各資産クラスの指数》

日本株 : 東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株 : MSCI コクサイ・インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株 : MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債 : NOMURA-BPI 国債

先進国債 : シティ世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債 : JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド (円ベース)

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースの指数を採用しています。

なお、JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド (円ベース) は、委託会社で円換算しています。

代表的な資産クラスの指数の著作権等についてはこの運用報告書の最後に記載してありますので、ご参照ください。

## 当該投資信託のデータ

### テンブルトン世界債券ファンド 限定為替ヘッジコース

#### 1 当該投資信託の組入資産の内容

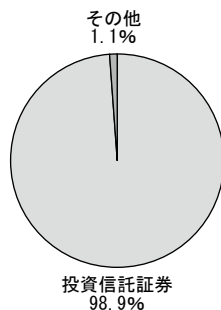
##### ○組入ファンド

(組入銘柄数：2銘柄)

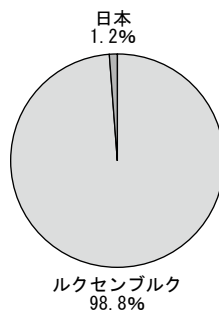
	第11期末
	2016年6月20日
フランクリン・テンブルトン・インベストメント・ファンズ-テンブルトン・グローバル・ボンド・ファンド Class I (Mdis) JPY-HI	98.8%
日本短期債券ファンド (適格機関投資家限定)	0.0%

(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

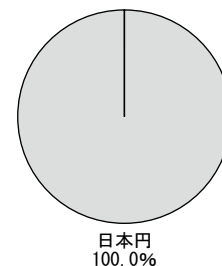
##### ○資産別配分



##### ○国別配分



##### ○通貨別配分



(注) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

#### 2 純資産等

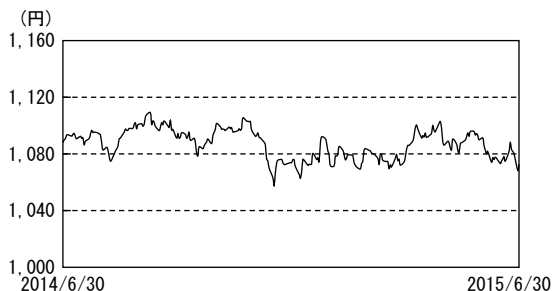
項目	第11期末
	2016年6月20日
純資産総額	6,055,847,894円
受益権総口数	6,030,093,679口
1万口当たり基準価額	10,043円

(注) 当期 (第11期) 中における追加設定元本額は2,325,439,662円、同解約元本額は178,997,565円です。

### 3 組入上位ファンドの概要

◆フランクリン・テンプレートン・インベストメント・ファンズーテンプレートン・グローバル・ボンド・ファンド (2014年7月1日～2015年6月30日)

#### ○基準価額の推移



(注) 当ファンドが投資対象とするClass I (Mdis) JPY-H1の分配金再投資基準価額です。

#### ○費用の明細

(2014年7月1日～2015年6月30日)

項目	比率
運用報酬	0.55%
管理会社報酬、保管銀行報酬、監査費用等	0.30%
合計	0.85%

(注) 当ファンドが投資対象とするClass I (Mdis) JPY-H1の数値です。

(注) 1万円当たりの費用明細に代えて、当期間における各費用の平均純資産総額に対する比率を記載したものです。

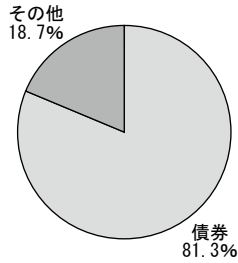
#### ○上位10銘柄 (2015年6月30日現在)

銘柄名	通貨	比率
Government of Mexico, 8.00%, 12/17/15	メキシコペソ	2.50
Government of Hungary, senior note, 6.375%, 03/29/21	米ドル	2.38
Government of Poland, Strip, 01/25/16	ポーランドズロチ	2.35
Government of Malaysia, 3.835%, 08/12/15	マレーシアリング	2.01
Government of Ireland, senior bond, 5.40%, 03/13/25	ユーロ	1.93
Korea Monetary Stabilization Bond, senior note, 2.46%, 08/02/16	韓国ウォン	1.83
Nota Do Tesouro Nacional, 10.00%, 01/01/17	ブラジルレアル	1.56
Government of Malaysia, 4.72%, 09/30/15	マレーシアリング	1.55
Government of Malaysia, 3.197%, 10/15/15	マレーシアリング	1.53
Korea Treasury Bond, senior note, 2.75%, 12/10/15	韓国ウォン	1.47
組入銘柄数	226銘柄	

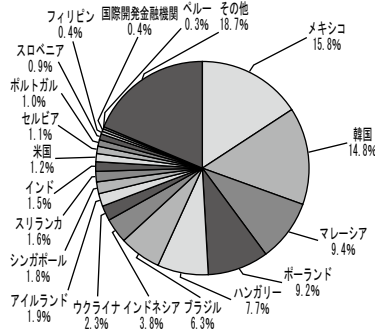
(注) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

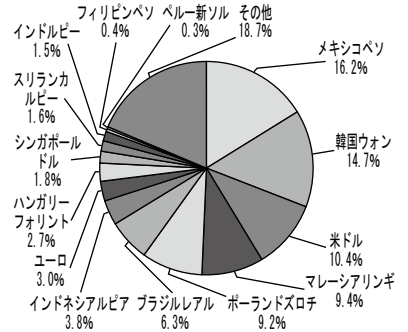
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分

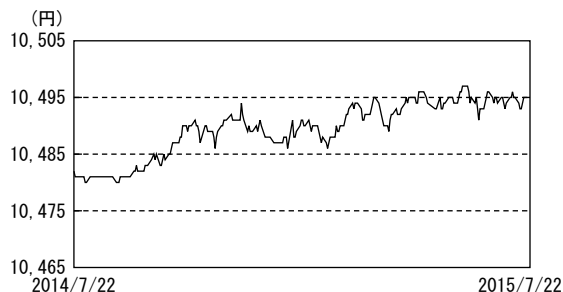


(注) 資産別・国別・通貨別配分のデータは2015年6月30日現在のものです。

(注) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

◆日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）（2014年7月23日～2015年7月22日）

○基準価額の推移



○1万口当たりの費用明細

(2014年7月23日～2015年7月22日)

項目	金額	比率	項目の概要
(a) 信託報酬 (投信会社)	15円 (12)	0.140% (0.107)	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等の対価
(販売会社)	(1)	(0.011)	分配金・償還金・換金代金支払等の事務手続き、交付運用報告書等の送付、購入後の説明・情報提供等の対価
(受託会社)	(2)	(0.022)	投資信託財産の保管・管理、運用指図の実行等の対価
(b) その他費用 (監査費用)	0 (0)	0.003 (0.003)	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 ファンドの決算時等に監査法人から監査を受けるための費用
合計	15	0.143	
期中の平均基準価額は、10,489円です。			

(注) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 消費税は報告日の税率を採用しています。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

以下のデータは、日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）の主要投資対象である日本短期債券マザーファンドの内容です。

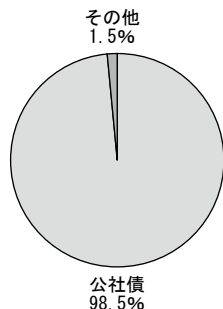
○上位10銘柄 (2015年7月22日現在)

銘柄名	業種／種別	比率
第123回利付国債（5年）	国債証券	7.6
第122回利付国債（5年）	国債証券	6.4
第121回利付国債（5年）	国債証券	3.8
第382回東北電力	普通社債券	2.7
第409回中部電力	普通社債券	2.6
第10回三井住友銀行（劣後特約付）	普通社債券	2.6
第6回みずほ銀行（劣後特約付）	普通社債券	2.6
第5回オーストラリア・コモンウェルス銀行	普通社債券	2.6
第416回九州電力	普通社債券	2.6
第8回オーストラリア・ニュージーランド銀行	普通社債券	2.6
組入銘柄数	47銘柄	

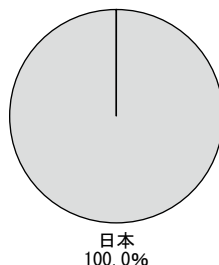
(注) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

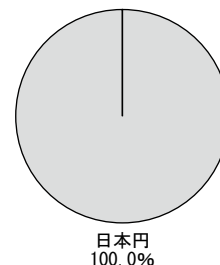
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



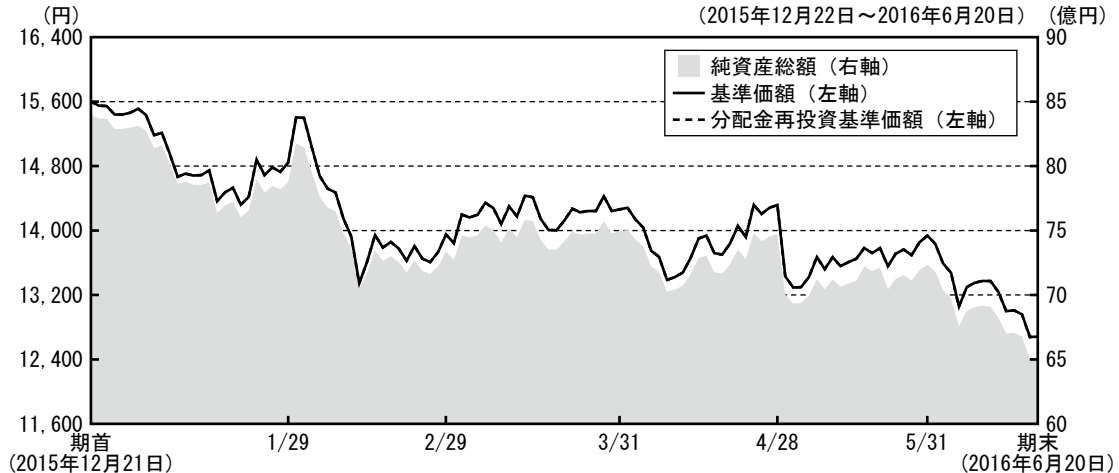
(注) 資産別・国別・通貨別配分のデータは2015年7月22日現在のものです。

(注) 比率はマザーファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。

## テンプレートン世界債券ファンド 為替ヘッジなしコース

### 運用経過の説明

#### 1 基準価額等の推移



第11期首：15,602円

第11期末：12,682円（既払分配金10円）

騰落率：-18.7%（分配金再投資ベース）

- (注) 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入金額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 当ファンドが投資を行う投資対象ファンドは、特定のベンチマークを上回ることを目指して運用するものではありません。したがって、当ファンドもベンチマークを設定していません。

#### 2 基準価額の主な変動理由

基準価額の値下がり、は、主要投資対象である「フランクリン・テンプレートン・インベストメント・ファンズ・テンプレートン・グローバル・ボンド・ファンド Class I (Mdis) JPY」（以下、「JPYクラス」といいます。）が値下がりしたことによるものです。この背景としては、主に以下の要因が挙げられます。

上昇要因：

- ・新興国通貨の一部（ブラジルレアルなど）が米ドルに対し上昇したこと
- ・新興国を含む世界各国の国債、政府機関債等からの利息収入

下落要因：

- ・実質的に米ドルで売り建てしている通貨（円、ユーロなど）が米ドルに対し上昇したこと
- ・新興国通貨の一部（メキシコペソなど）が対米ドルで下落したこと
- ・為替相場が円高・ドル安となったこと

**3 1万口当たり費用明細**

項目	当期 2015年12月22日～2016年6月20日		項目の概要
	金額	比率	
(a) 信託報酬	76円	0.524%	(a) 信託報酬＝〔期中の平均基準価額〕×信託報酬率、期中の平均基準価額は14,470円です。 ファンドの運用、受託会社への指図、基準価額の算出、開示資料作成等の対価 購入後の情報提供、運用報告書各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価 ファンドの運用財産の保管・管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価
（投信会社）	(16)	(0.107)	
（販売会社）	(58)	(0.403)	
（受託会社）	(2)	(0.013)	
(b) その他費用 （監査費用）	0 (0)	0.003 (0.003)	(b) その他費用＝ $\frac{\text{〔期中のその他費用〕}}{\text{〔期中の平均受益権口数〕}}$ その他費用 ・監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合計	76	0.527	

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

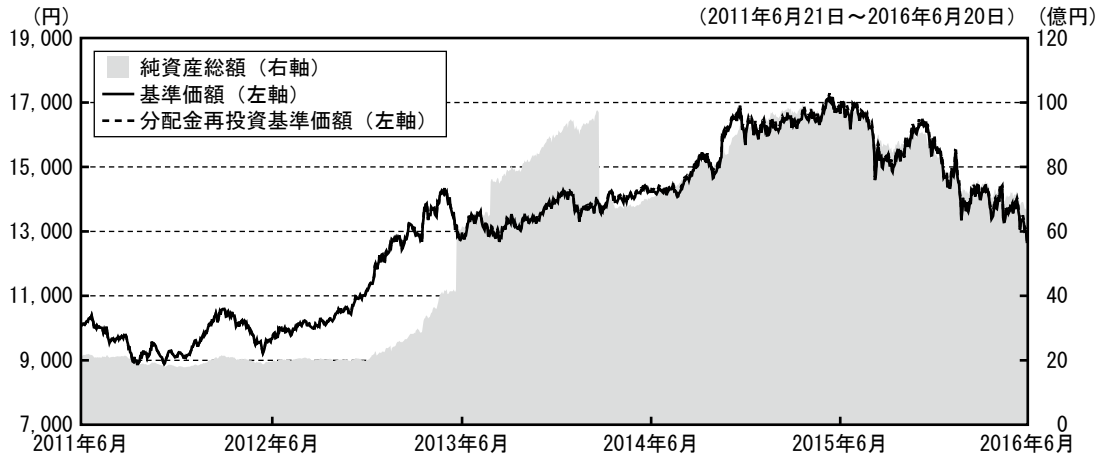
(注) 各項目の費用は、このファンドが組入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。

当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」等が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示しております。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。



#### 4 最近5年間の基準価額等の推移



(注) 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入金額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。

	2011年6月20日 決算日	2012年6月20日 決算日	2013年6月20日 決算日	2014年6月20日 決算日	2015年6月22日 決算日	2016年6月20日 決算日
基準価額 (円)	10,047	9,679	12,913	14,238	16,655	12,682
期間分配金合計(税込み) (円)	—	20	20	20	20	20
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	-3.5	33.6	10.4	17.1	-23.7
純資産総額 (百万円)	2,100	1,962	6,167	7,058	9,728	6,508

(注) 当ファンドは、「フランクリン・テンブルトン・インベストメント・ファンズ-テンブルトン・グローバル・ボンド・ファンド Class I (Mdis) JPY」および「日本短期債券ファンド(適格機関投資家限定)」に投資するファンド・オブ・ファンズです。ファンドの収益率を測る適切なインデックスが存在しないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

## 5 投資環境

### (債券市場)

当期、世界の債券市場では、世界経済の減速懸念や各国・地域の金融政策を巡る思惑などから投資家のリスク回避姿勢が強まり、期を通じて長期金利は全般的に低下（価格は上昇）しました。

米国の債券市場では、長期金利は低下しました。2015年12月に米連邦準備理事会（FRB）が実質的なゼロ金利政策を解除し、9年半ぶりに政策金利を引き上げたことを受け、10年国債利回りは期首の2.2%台前半から2.3%台前半まで上昇しましたが、追加利上げに対する不透明感から利回りの上昇は限定的となりました。2016年1月以降は、中東の地政学リスクや中国経済の減速懸念から世界の株式市場が大幅に下落し、投資家のリスク回避姿勢が強まりました。また原油安に伴う期待インフレ率の低下も利回り低下の圧力となり、10年国債利回りは2月半ばに一時1.7%を下回る水準まで低下しました。その後、原油価格の反発や中国経済に対する不安の後退などから10年国債利回りは3月半ばには一時1.9%台後半まで上昇しました。しかし、期末にかけて雇用統計などの一部主要経済指標に弱さが見られる中、利上げの時期を巡る不透明感や英国の欧州連合（EU）離脱懸念などを背景に、10年国債利回りは再び低下基調となり、期首を下回る1.6%台前半で期末を迎えました。

欧州では、欧州中央銀行（ECB）が金融緩和政策を継続する中、欧州金融機関の信用懸念、南欧諸国の政治リスクやギリシャの財政問題に対する懸念などから、長期金利は全般的に低下しました。

新興国の債券市場では、原油価格が2016年2月の底値から回復基調となったことを受け、投資家のリスク回避姿勢が後退したことから長期金利は全般的に低下しました。

### (外国為替市場)

当期、外国為替市場では、米ドルの対円相場は期首の121円台前半から期末にかけて104円台半ばまで下落しました。

期首、FRBが政策金利の引き上げを決定したものの、米国の金利上昇ペースが緩やかになるとの見方が台頭したことや資源価格の低迷等により、米ドルの対円相場は年末にかけ1米ドル120円台前半まで下落しました。2016年1月以降は、中国経済の減速懸念や原油価格の急落を受けた投資家のリスク回避姿勢による円買いが強まり、米ドルの対円相場は2月に一時1米ドル112円を下回る水準まで下落しました。その後、原油価格の回復などが一時的に米ドルの下支えになったものの、米国の追加利上げ観測の一段の後退や原油減産に向けた主要原油産出国の協議に対する不透明感などを背景に再び下落基調となりました。4月末には、米国の政策金利が据え置かれたことに加え、日本銀行（日銀）が追加の金融緩和政策を見送ったことを受け、米ドルの対円相場は1米ドル106円台前半まで急落しました。期末にかけては、それまでの急激な円高に対する反動やFRB高官の利上げを示唆する発言などにより、米ドルが買い戻される局面はあったものの、5月の軟調な雇用統計を受け利上げ観測が後退したことや英国のEU離脱に対する不透明感から、リスク回避の円買い需要が強まった結果、米ドルの対円相場は104円台半ばと期首を大きく下回る水準で期末を迎えました。

一方、ユーロは米ドルに対して堅調な展開となりましたが、対円では欧州中央銀行（ECB）による金融緩和政策の継続や円が対米ドルで円高となった影響を受けて軟調な展開となりました。期末にかけては英国のEU離脱に対する懸念から対円でさらに弱含みしました。新興国通貨はまちまちな展開となりました。

## 6 当該投資信託のポートフォリオ

(当ファンド)

運用の基本方針にもとづき、当期を通して、主要投資対象であるJPY限定為替ヘッジ・クラスを高位に組み入れました。日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）については低位の組入れにとどめました。

(投資対象ファンド：JPYクラス)

<国・地域配分>

－2016年5月末時点での主な配分は、メキシコ21.0%、韓国17.5%、ブラジル14.5%、マレーシア13.1%、インドネシア8.3%となりました。

<通貨別配分>

－2016年5月末時点での主な配分は、米ドル121.8%、メキシコペソ21.5%、マレーシアリング18.9%、ブラジルリアル14.5%、インドネシアルピア8.3%などを買建としました。一方で、ユーロ、円、豪ドルなどを売建としました。

<信用格付別配分>

－2016年5月末時点での主な配分は、投資適格70.6%、非投資適格22.8%、その他6.6%としました。

(投資対象ファンド：日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）)

主として日本短期債券マザーファンドを通じて、わが国の公社債・金融商品に投資し、信託財産の安定的な成長をめざして安定運用を行いました。

## 7 当該投資信託のベンチマークとの差異

当ファンドはベンチマークや参考指数を設けていないため、本項目は記載していません。

## 8 分配金

当期の収益分配につきましては、基準価額水準、市況動向等を勘案して次表の通りとさせていただきます。

なお、留保された収益の運用につきましては、特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行います。

(単位：円、1万口当たり・税引前)

第11期 2015年12月22日～2016年6月20日	
当期分配金	10
（対基準価額比率）	0.079%
当期の収益	10
当期の収益以外	－
翌期繰越分配対象額	5,421

(注) 円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税込み）に合致しない場合があります。

(注) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

## 今後の運用方針

(当ファンド)

運用の基本方針にもとづき、JPYクラス、および日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）へ投資を行います。JPYクラスへの投資比率は高位を維持する方針です。

(投資対象ファンド：JPYクラス)

投資対象ファンドにおいては、引き続き金利上昇局面に備えたポジションを投資戦略の中核としています。そのため、今後もポートフォリオにおいては、デュレーション短期化の方針を維持すると同時に、米国国債のリターンと逆相関のパフォーマンスを実現するようなポートフォリオ運営を行う方針です。投資にあたっては、リターンに見合わない金利リスクを取ることなく、実質利回りがプラスとなるような投資機会を引き続き積極的に捉えていきます。また、経済のファンダメンタルズが堅調で、確固とした財政、金融政策を実行している国を見極め、選択的に投資する予定です。グローバル投資においては、多くの投資機会は結果が出るまでに時間を要することがあり、長期的な運用成果を得るためには短期的な値動きの荒い環境を乗り越える必要があります。世界の債券・通貨市場には、ファンダメンタルズに比べて過小評価された魅力的な投資機会が数多く見られます。たとえば、インフレ率が安定的に上昇し健全な経済成長を維持している一方で、現地通貨が経済ファンダメンタルズから見て割安な水準にあると判断した国の通貨等に選択的に投資していく予定です。

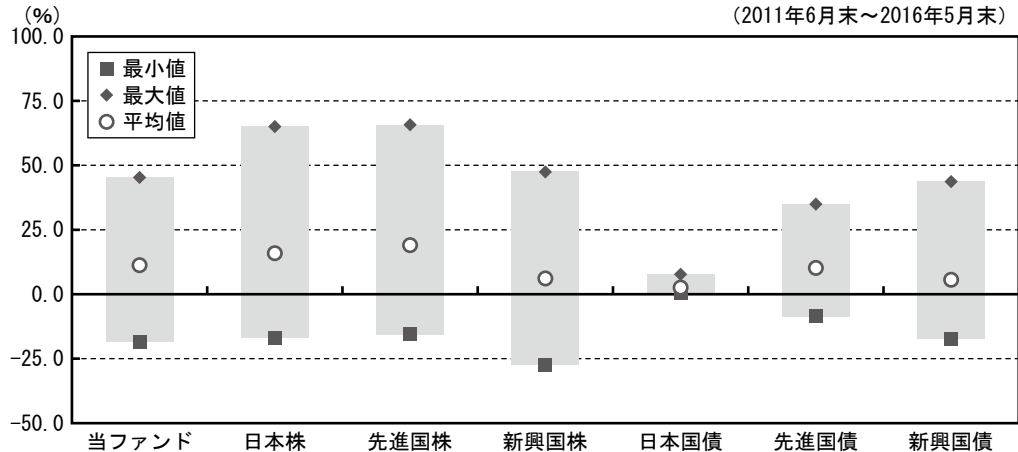
(投資対象ファンド：日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）)

今後も引き続き、主として日本短期債券マザーファンドを通じて、わが国の公社債・金融商品に投資し、信託財産の安定的な成長をめざして安定運用を行う方針です。

## 当該投資信託の概要

商品分類	追加型投信／内外／債券	
信託期間	無期限	
運用方針	投資信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行います。	
主要投資対象	当ファンド	<p>①フランクリン・テンブルトン・インベストメント・ファンズーテンブルトン・グローバル・ボンド・ファンドの円建て外国投資証券Class I (Mdis) JPY</p> <p>②日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）の受益証券</p>
	フランクリン・テンブルトン・インベストメント・ファンズーテンブルトン・グローバル・ボンド・ファンド Class I (Mdis) JPY	世界各国（新興国を含む）の国債および政府機関債等
	日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）	日本短期債券マザーファンドの受益証券を通じて、わが国の公社債、金融商品に投資
運用方法	<p>主として、外国投資証券である「フランクリン・テンブルトン・インベストメント・ファンズーテンブルトン・グローバル・ボンド・ファンド（Class I (Mdis) JPY）」への投資を通じて、世界各国（新興国を含む）の国債および政府機関債等を実質的な投資を行います。また、証券投資信託である「日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）」の受益証券への投資も行います。</p> <p>外国投資証券への投資は高位（概ね信託財産の純資産総額の90%以上）を維持することを基本とします。</p>	
分配方針	<p>毎決算時（毎年6月および12月の20日（休業日の場合は翌営業日））に、基準価額水準、市況動向等を勘案して収益分配金額を決定します。</p> <p>分配対象収益が少額の場合には分配を行わないことがあります。</p> <p>留保益の運用については、特に制限を設けず、委託者の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。</p>	

## 代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位: %)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
平均値	11.3	15.9	19.0	6.1	2.6	10.2	5.6
最大値	45.3	65.0	65.7	47.4	7.7	34.9	43.7
最小値	-18.4	-17.0	-15.6	-27.4	0.4	-8.6	-17.4

2011年6月～2016年5月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の平均・最大・最小を、当ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示したものです。

(注) すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

### 《各資産クラスの指数》

日本株 : 東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株 : MSCI コクサイ・インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株 : MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債 : NOMURA-BPI 国債

先進国債 : シティ世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債 : JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド (円ベース)

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースの指数を採用しています。

なお、JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド (円ベース) は、委託会社で円換算しています。

代表的な資産クラスの指数の著作権等についてはこの運用報告書の最後に記載してありますので、ご参照ください。

## 当該投資信託のデータ

### テンプレトン世界債券ファンド 為替ヘッジなしコース

#### 1 当該投資信託の組入資産の内容

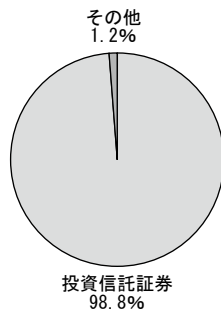
##### ○組入ファンド

(組入銘柄数：2銘柄)

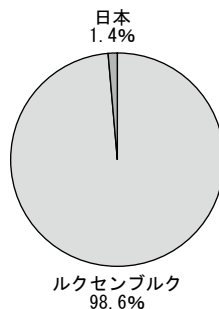
	第11期末
	2016年6月20日
フランクリン・テンプレトン・インベストメント・ファンズ-テンプレトン・グローバル・ボンド・ファンド Class I (Mdis) JPY	98.6%
日本短期債券ファンド (適格機関投資家限定)	0.2%

(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

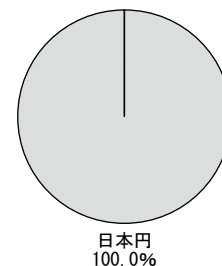
##### ○資産別配分



##### ○国別配分



##### ○通貨別配分



(注) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

#### 2 純資産等

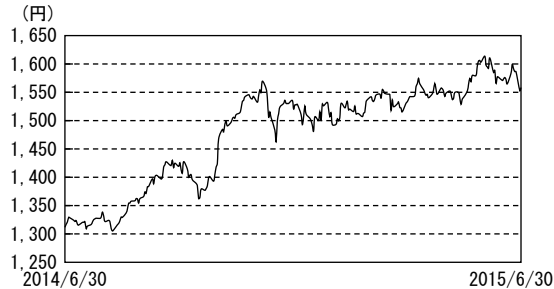
項目	第11期末
	2016年6月20日
純資産総額	6,508,684,314円
受益権総口数	5,132,366,838口
1万口当たり基準価額	12,682円

(注) 当期 (第11期) 中における追加設定元本額は161,965,286円、同解約元本額は410,360,272円です。

### ③ 組入上位ファンドの概要

◆フランクリン・テンプレートン・インベストメント・ファンズーテンプレートン・グローバル・ボンド・ファンド (2014年7月1日～2015年6月30日)

#### ○基準価額の推移



(注) 当ファンドが投資対象とするClass I (Mdis) JPYの分配金再投資基準価額です。

#### ○費用の明細

(2014年7月1日～2015年6月30日)

項目	比率
運用報酬	0.55%
管理会社報酬、保管銀行報酬、監査費用等	0.29%
合計	0.84%

(注) 当ファンドが投資対象とするClass I (Mdis) JPYの数値です。  
 (注) 1万円当たりの費用明細に代えて、当期間における各費用の平均純資産総額に対する比率を記載したものです。

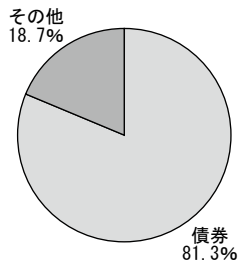
#### ○上位10銘柄 (2015年6月30日現在)

銘柄名	通貨	比率
Government of Mexico, 8.00%, 12/17/15	メキシコペソ	2.50
Government of Hungary, senior note, 6.375%, 03/29/21	米ドル	2.38
Government of Poland, Strip, 01/25/16	ポーランドズロチ	2.35
Government of Malaysia, 3.835%, 08/12/15	マレーシアリング	2.01
Government of Ireland, senior bond, 5.40%, 03/13/25	ユーロ	1.93
Korea Monetary Stabilization Bond, senior note, 2.46%, 08/02/16	韓国ウォン	1.83
Nota Do Tesouro Nacional, 10.00%, 01/01/17	ブラジルレアル	1.56
Government of Malaysia, 4.72%, 09/30/15	マレーシアリング	1.55
Government of Malaysia, 3.197%, 10/15/15	マレーシアリング	1.53
Korea Treasury Bond, senior note, 2.75%, 12/10/15	韓国ウォン	1.47
組入銘柄数	226銘柄	

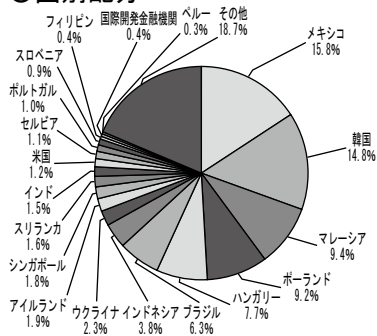
(注) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。  
 (注) 全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。



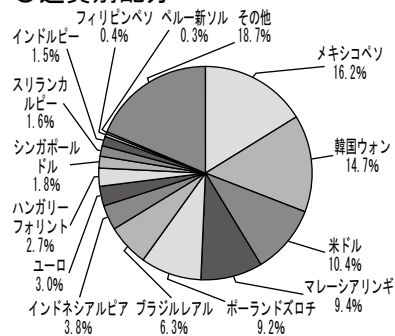
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分

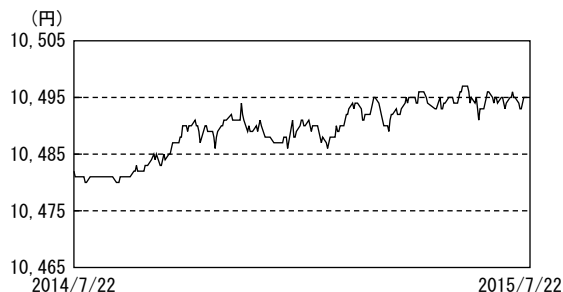


(注) 資産別・国別・通貨別配分のデータは2015年6月30日現在のものです。

(注) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

## ◆日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）（2014年7月23日～2015年7月22日）

## ○基準価額の推移



## ○1万口当たりの費用明細

(2014年7月23日～2015年7月22日)

項目	金額	比率	項目の概要
(a) 信託報酬 (投信会社)	15円 (12)	0.140% (0.107)	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等の対価
(販売会社)	(1)	(0.011)	分配金・償還金・換金代金支払等の事務手続き、交付運用報告書等の送付、購入後の説明・情報提供等の対価
(受託会社)	(2)	(0.022)	投資信託財産の保管・管理、運用指図の実行等の対価
(b) その他費用 (監査費用)	0 (0)	0.003 (0.003)	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 ファンドの決算時等に監査法人から監査を受けるための費用
合計	15	0.143	
期中の平均基準価額は、10,489円です。			

(注) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 消費税は報告日の税率を採用しています。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

以下のデータは、日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）の主要投資対象である日本短期債券マザーファンドの内容です。

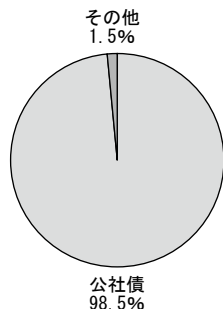
○上位10銘柄 (2015年7月22日現在)

銘柄名	業種／種別	比率
第123回利付国債（5年）	国債証券	7.6
第122回利付国債（5年）	国債証券	6.4
第121回利付国債（5年）	国債証券	3.8
第382回東北電力	普通社債券	2.7
第409回中部電力	普通社債券	2.6
第10回三井住友銀行（劣後特約付）	普通社債券	2.6
第6回みずほ銀行（劣後特約付）	普通社債券	2.6
第5回オーストラリア・コモンウェルス銀行	普通社債券	2.6
第416回九州電力	普通社債券	2.6
第8回オーストラリア・ニュージーランド銀行	普通社債券	2.6
組入銘柄数	47銘柄	

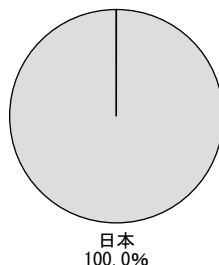
(注) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

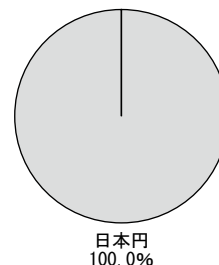
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



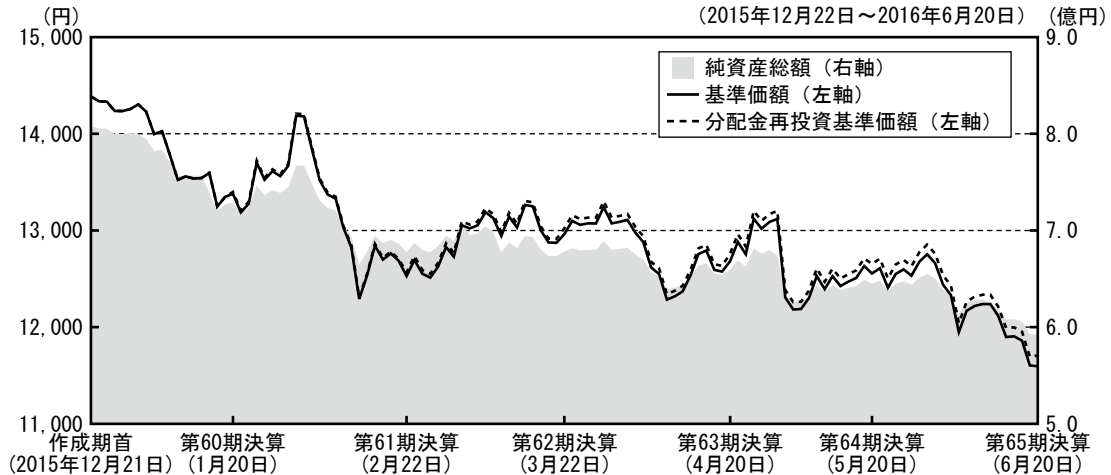
(注) 資産別・国別・通貨別配分のデータは2015年7月22日現在のものです。

(注) 比率はマザーファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。

## テンプレートン世界債券ファンド 毎月分配型・為替ヘッジなしコース

### 運用経過の説明

#### 1 基準価額等の推移



第60期首：14,386円

第65期末：11,596円 (既払分配金120円)

騰落率：-18.6% (分配金再投資ベース)

- (注) 分配金再投資基準価額は、収益分配金 (税込み) を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入金額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 当ファンドが投資を行う投資対象ファンドは、特定のベンチマークを上回ることを目指して運用するものではありません。したがって、当ファンドもベンチマークを設定しておりません。

#### 2 基準価額の主な変動理由

基準価額の値下がり、は、主要投資対象である「フランクリン・テンプレートン・インベストメント・ファンズ・テンプレートン・グローバル・ボンド・ファンド Class I (Mdis) JPY」 (以下、「JPYクラス」といいます。) が値下がりしたことによるものです。この背景としては、主に以下の要因が挙げられます。

上昇要因：

- ・新興国通貨の一部 (ブラジルレアルなど) が米ドルに対し上昇したこと
- ・新興国を含む世界各国の国債、政府機関債等からの利息収入

下落要因：

- ・実質的に米ドルで売り建てしている通貨 (円、ユーロなど) が米ドルに対し上昇したこと
- ・新興国通貨の一部 (メキシコペソなど) が米ドルで下落したこと
- ・為替相場が円高・ドル安となったこと

### 3 1万口当たり費用明細

項目	当学期 2015年12月22日～2016年6月20日		項目の概要
	金額	比率	
(a) 信託報酬	70円	0.524%	(a) 信託報酬＝〔作成期間の平均基準価額〕×信託報酬率、作成期間の平均基準価額は13,294円です。 ファンドの運用、受託会社への指図、基準価額の算出、開示資料作成等の対価 購入後の情報提供、運用報告書各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価 ファンドの運用財産の保管・管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価
（投信会社）	(14)	(0.107)	
（販売会社）	(54)	(0.403)	
（受託会社）	(2)	(0.013)	
(b) その他費用 （監査費用）	0 (0)	0.004 (0.004)	(b) その他費用＝ $\frac{\text{〔作成期間のその他費用〕}}{\text{〔作成期間の平均受益権口数〕}}$ その他費用 ・監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合計	70	0.528	

(注) 作成期間の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

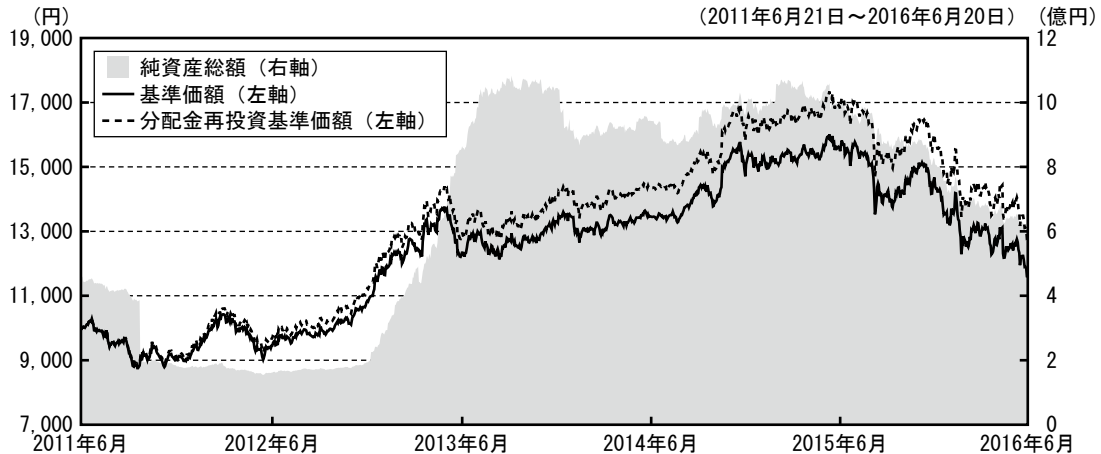
(注) 各金額は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各項目の費用は、このファンドが組入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。

当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」等が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示しております。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

#### 4 最近5年間の基準価額等の推移



(注) 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入金額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。

	2011年6月20日 決算日	2012年6月20日 決算日	2013年6月20日 決算日	2014年6月20日 決算日	2015年6月22日 決算日	2016年6月20日 決算日
基準価額 (円)	9,951	9,456	12,371	13,456	15,488	11,596
期間分配金合計(税込み) (円)	—	240	240	240	240	240
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	-2.5	33.6	10.8	17.0	-23.8
純資産総額 (百万円)	456	161	863	942	988	592

(注) 当ファンドは、「フランクリン・テンブルトン・インベストメント・ファンズ-テンブルトン・グローバル・ボンド・ファンド Class I (Mdis) JPY」および「日本短期債券ファンド(適格機関投資家限定)」に投資するファンド・オブ・ファンズです。

ファンドの収益率を測る適切なインデックスが存在しないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

## 5 投資環境

### (債券市場)

当作成期、世界の債券市場では、世界経済の減速懸念や各国・地域の金融政策を巡る思惑などから投資家のリスク回避姿勢が強まり、期を通じて長期金利は全般的に低下（価格は上昇）しました。

米国の債券市場では、長期金利は低下しました。2015年12月に米連邦準備理事会（FRB）が実質的なゼロ金利政策を解除し、9年半ぶりに政策金利を引き上げたことを受け、10年国債利回りは当作成期首の2.2%台前半から2.3%台前半まで上昇しましたが、追加利上げに対する不透明感から利回りの上昇は限定的となりました。2016年1月以降は、中東の地政学リスクや中国経済の減速懸念から世界の株式市場が大幅に下落し、投資家のリスク回避姿勢が強まりました。また原油安に伴う期待インフレ率の低下も利回り低下の圧力となり、10年国債利回りは2月半ばに一時1.7%を下回る水準まで低下しました。その後、原油価格の反発や中国経済に対する不安の後退などから10年国債利回りは3月半ばには一時1.9%台後半まで上昇しました。しかし、当作成期末にかけて雇用統計などの一部主要経済指標に弱さが見られる中、利上げの時期を巡る不透明感や英国の欧州連合（EU）離脱懸念などを背景に、10年国債利回りは再び低下基調となり、当作成期首を下回る1.6%台前半で当作成期末を迎えました。

欧州では、欧州中央銀行（ECB）が金融緩和政策を継続する中、欧州金融機関の信用懸念、南欧諸国の政治リスクやギリシャの財政問題に対する懸念などから、長期金利は全般的に低下しました。

新興国の債券市場では、原油価格が2016年2月の底値から回復基調となったことを受け、投資家のリスク回避姿勢が後退したことから長期金利は全般的に低下しました。

### (外国為替市場)

当作成期、外国為替市場では、米ドルの対円相場は当作成期首の121円台前半から当作成期末にかけて104円台半ばまで下落しました。

当作成期首、FRBが政策金利の引き上げを決定したものの、米国の金利上昇ペースが緩やかになるとの見方が台頭したことや資源価格の低迷等により、米ドルの対円相場は年末にかけ1米ドル120円台前半まで下落しました。2016年1月以降は、中国経済の減速懸念や原油価格の急落を受けた投資家のリスク回避姿勢による円買いが強まり、米ドルの対円相場は2月に一時1米ドル112円を下回る水準まで下落しました。その後、原油価格の回復などが一時的に米ドルの下支えになったものの、米国の追加利上げ観測の一段の後退や原油減産に向けた主要原油産出国の協議に対する不透明感などを背景に再び下落基調となりました。4月末には、米国の政策金利が据え置かれたことに加え、日本銀行（日銀）が追加の金融緩和政策を見送ったことを受け、米ドルの対円相場は1米ドル106円台前半まで急落しました。当作成期末にかけては、それまでの急激な円高に対する反動やFRB高官の利上げを示唆する発言などにより、米ドルが買い戻される局面はあったものの、5月の軟調な雇用統計を受け利上げ観測が後退したことや英国のEU離脱に対する不透明感から、リスク回避の円買い需要が強まった結果、米ドルの対円相場は104円台半ばと当作成期首を大きく下回る水準で当作成期末を迎えました。

一方、ユーロは米ドルに対して堅調な展開となりましたが、対円では欧州中央銀行（ECB）による金融緩和政策の継続や円が対米ドルで円高となった影響を受けて軟調な展開となりました。当作成期末にかけては英国のEU離脱に対する懸念から対円でさらに弱含みしました。新興国通貨はまちまちな展開となりました。

## 6 当該投資信託のポートフォリオ

(当ファンド)

運用の基本方針にもとづき、当作成期を通して、主要投資対象である J P Y 限定為替ヘッジ・クラスを高位に組み入れました。日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）については低位の組入れにとどめました。

(投資対象ファンド： J P Y クラス)

<国・地域配分>

－2016年5月末時点での主な配分は、メキシコ21.0%、韓国17.5%、ブラジル14.5%、マレーシア13.1%、インドネシア8.3%となりました。

<通貨別配分>

－2016年5月末時点での主な配分は、米ドル121.8%、メキシコペソ21.5%、マレーシアリング18.9%、ブラジルリアル14.5%、インドネシアルピア8.3%などを買建としました。一方で、ユーロ、円、豪ドルなどを売建としました。

<信用格付別配分>

－2016年5月末時点での主な配分は、投資適格70.6%、非投資適格22.8%、その他6.6%としました。

(投資対象ファンド：日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）)

主として日本短期債券マザーファンドを通じて、わが国の公社債・金融商品に投資し、信託財産の安定的な成長をめざして安定運用を行いました。

## 7 当該投資信託のベンチマークとの差異

当ファンドはベンチマークや参考指数を設けていないため、本項目は記載していません。



## 8 分配金

当作成期の収益分配は次表の通りです。第60期から第64期につきましては、配当等収益を中心に分配を行いました。第65期につきましては、配当等収益に加え、基準価額の水準、市況動向等を勘案して決定いたしました。

なお、留保された収益の運用につきましては、特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行います。

(単位：円、1万口当たり・税引前)

	第60期 2015年12月22日～ 2016年1月20日	第61期 2016年1月21日～ 2016年2月22日	第62期 2016年2月23日～ 2016年3月22日	第63期 2016年3月23日～ 2016年4月20日	第64期 2016年4月21日～ 2016年5月20日	第65期 2016年5月21日～ 2016年6月20日
当期分配金	20	20	20	20	20	20
(対基準価額比率)	0.149%	0.159%	0.154%	0.157%	0.159%	0.172%
当期の収益	20	20	20	20	20	20
当期の収益以外	—	—	—	—	—	—
翌期繰越分配対象額	6,163	6,185	6,216	6,245	6,263	6,287

(注) 円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金(税込み)に合致しない場合があります。

(注) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

## 今後の運用方針

### (当ファンド)

運用の基本方針にもとづき、JPYクラス、および日本短期債券ファンド(適格機関投資家限定)へ投資を行います。JPYクラスへの投資比率は高位を維持する方針です。

### (投資対象ファンド：JPYクラス)

投資対象ファンドにおいては、引き続き金利上昇局面に備えたポジションを投資戦略の中核としています。そのため、今後もポートフォリオにおいては、デュレーション短期化の方針を維持すると同時に、米国国債のリターンと逆相関のパフォーマンスを実現するようなポートフォリオ運営を行う方針です。投資にあたっては、リターンに見合わない金利リスクを取ることなく、実質利回りがプラスとなるような投資機会を引き続き積極的に捉えていきます。また、経済のファンダメンタルズが堅調で、確固とした財政、金融政策を実行している国を見極め、選択的に投資する予定です。グローバル投資においては、多くの投資機会は結果が出るまでに時間を要することがあり、長期的な運用成果を得るためには短期的な値動きの荒い環境を乗り越える必要があります。世界の債券・通貨市場には、ファンダメンタルズに比べて過小評価された魅力的な投資機会が数多く見られます。たとえば、インフレ率が安定的に上昇し健全な経済成長を維持している一方で、現地通貨が経済ファンダメンタルズから見て割安な水準にあると判断した国の通貨等に選択的に投資していく予定です。

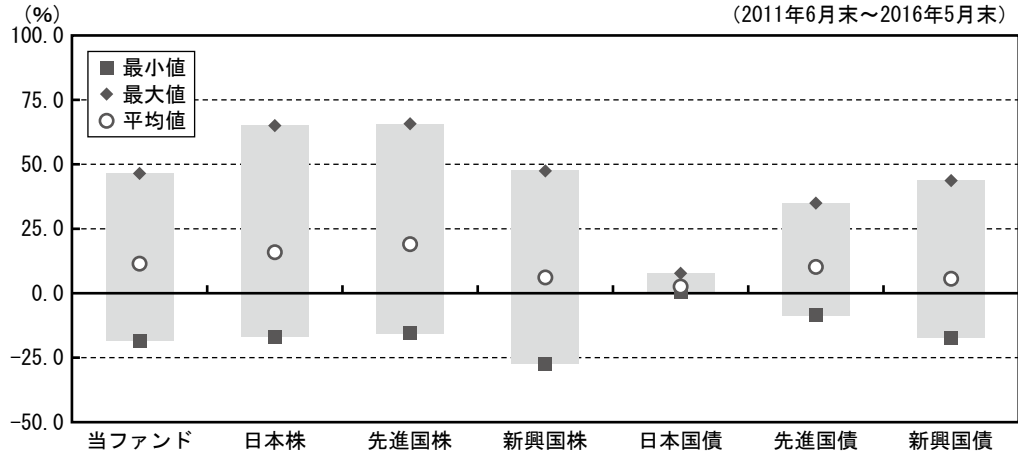
### (投資対象ファンド：日本短期債券ファンド(適格機関投資家限定))

今後も引き続き、主として日本短期債券マザーファンドを通じて、わが国の公社債・金融商品に投資し、信託財産の安定的な成長をめざして安定運用を行う方針です。

## 当該投資信託の概要

商品分類	追加型投信／内外／債券	
信託期間	無期限	
運用方針	投資信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行います。	
主要投資対象	当ファンド	①フランクリン・テンプレトン・インベストメント・ファンズーテンプレトン・グローバル・ボンド・ファンドの円建て外国投資証券Class I (Mdis) JPY ②日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）の受益証券
	フランクリン・テンプレトン・インベストメント・ファンズーテンプレトン・グローバル・ボンド・ファンド Class I (Mdis) JPY	世界各国（新興国を含む）の国債および政府機関債等
	日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）	日本短期債券マザーファンドの受益証券を通じてわが国の公社債、金融商品に投資
運用方法	主として、外国投資証券である「フランクリン・テンプレトン・インベストメント・ファンズーテンプレトン・グローバル・ボンド・ファンド（Class I (Mdis) JPY）」への投資を通じて、世界各国（新興国を含む）の国債および政府機関債等を実質的な投資を行います。また、証券投資信託である「日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）」の受益証券への投資も行います。 外国投資証券への投資は高位（概ね信託財産の純資産総額の90%以上）を維持することを基本とします。	
分配方針	毎決算時（毎月20日（休業日の場合は翌営業日））に、基準価額水準、市況動向等を勘案して収益分配金額を決定します。 分配対象収益が少額の場合には分配を行わないことがあります。 留保益の運用については、特に制限を設けず、委託者の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。 なお、6月および12月以外の月の決算時の分配については、原則として配当等収益を中心とするものとします。	

## 代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位: %)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
平均値	11.5	15.9	19.0	6.1	2.6	10.2	5.6
最大値	46.5	65.0	65.7	47.4	7.7	34.9	43.7
最小値	-18.6	-17.0	-15.6	-27.4	0.4	-8.6	-17.4

2011年6月～2016年5月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の平均・最大・最小を、当ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示したものです。

(注) すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

### 《各資産クラスの指数》

日本株 : 東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株 : MSCI コクサイ・インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株 : MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債 : NOMURA-BPI 国債

先進国債 : シティ世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債 : JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド (円ベース)

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースの指数を採用しています。

なお、JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド (円ベース) は、委託会社で円換算しています。

代表的な資産クラスの指数の著作権等についてはこの運用報告書の最後に記載してありますので、ご参照ください。

## 当該投資信託のデータ

### テンブルトン世界債券ファンド 毎月分配型・為替ヘッジなしコース

#### 1 当該投資信託の組入資産の内容

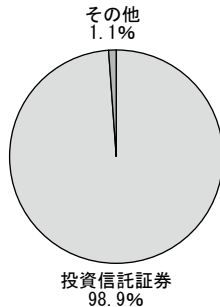
##### ○組入ファンド

(組入銘柄数：2銘柄)

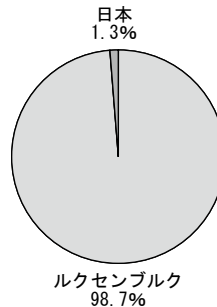
	第65期末
	2016年6月20日
フランクリン・テンブルトン・インベストメント・ファンズ-テンブルトン・グローバル・ボンド・ファンド Class I (Mdis) JPY	98.7%
日本短期債券ファンド (適格機関投資家限定)	0.1%

(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

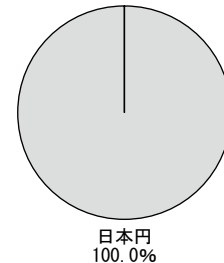
##### ○資産別配分



##### ○国別配分



##### ○通貨別配分



(注) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

#### 2 純資産等

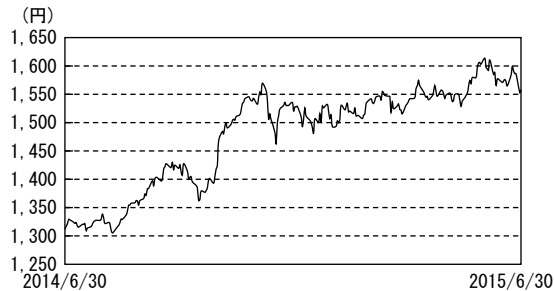
項目	第60期末	第61期末	第62期末	第63期末	第64期末	第65期末
	2016年1月20日	2016年2月22日	2016年3月22日	2016年4月20日	2016年5月20日	2016年6月20日
純資産総額	728,705,618円	677,761,679円	678,355,210円	659,771,891円	645,000,505円	592,479,501円
受益権総口数	544,657,102口	540,968,625口	523,304,784口	520,301,689口	513,750,237口	510,912,372口
1万口当たり基準価額	13,379円	12,529円	12,963円	12,681円	12,555円	11,596円

(注) 当作成期間 (第60期～第65期) 中における追加設定元本額は2,952,642円、同解約元本額は53,763,794円です。

### ③ 組入上位ファンドの概要

◆フランクリン・テンプレートン・インベストメント・ファンズーテンプレートン・グローバル・ボンド・ファンド (2014年7月1日～2015年6月30日)

#### ○基準価額の推移



(注) 当ファンドが投資対象とするClass I (Mdis) JPYの分配金再投資基準価額です。

#### ○費用の明細

(2014年7月1日～2015年6月30日)

項目	比率
運用報酬	0.55%
管理会社報酬、保管銀行報酬、監査費用等	0.29%
合計	0.84%

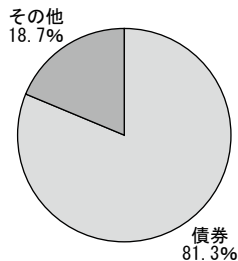
(注) 当ファンドが投資対象とするClass I (Mdis) JPYの数値です。  
 (注) 1万円当たりの費用明細に代えて、当期間における各費用の平均純資産総額に対する比率を記載したものです。

#### ○上位10銘柄 (2015年6月30日現在)

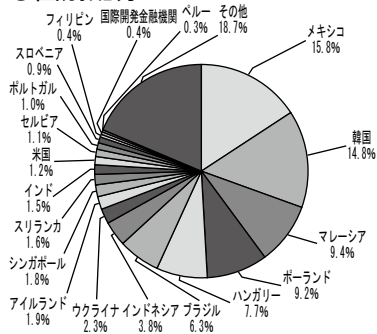
銘柄名	通貨	比率
Government of Mexico, 8.00%, 12/17/15	メキシコペソ	2.50
Government of Hungary, senior note, 6.375%, 03/29/21	米ドル	2.38
Government of Poland, Strip, 01/25/16	ポーランドズロチ	2.35
Government of Malaysia, 3.835%, 08/12/15	マレーシアリング	2.01
Government of Ireland, senior bond, 5.40%, 03/13/25	ユーロ	1.93
Korea Monetary Stabilization Bond, senior note, 2.46%, 08/02/16	韓国ウォン	1.83
Nota Do Tesouro Nacional, 10.00%, 01/01/17	ブラジルレアル	1.56
Government of Malaysia, 4.72%, 09/30/15	マレーシアリング	1.55
Government of Malaysia, 3.197%, 10/15/15	マレーシアリング	1.53
Korea Treasury Bond, senior note, 2.75%, 12/10/15	韓国ウォン	1.47
組入銘柄数	226銘柄	

(注) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。  
 (注) 全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

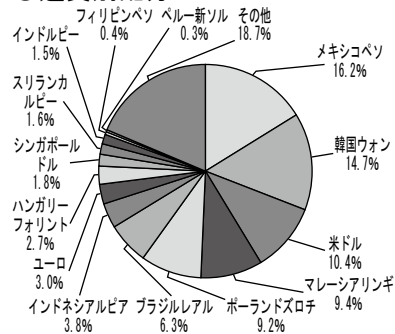
○資産別配分



○国別配分

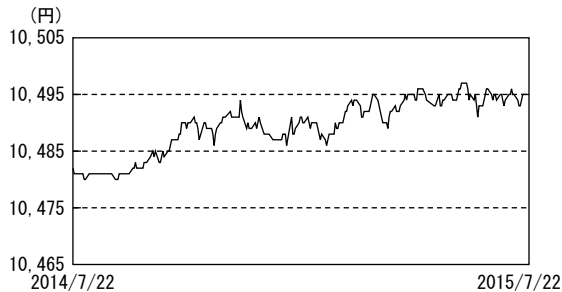


○通貨別配分



(注) 資産別・国別・通貨別配分のデータは2015年6月30日現在のものです。

(注) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

**◆日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）（2014年7月23日～2015年7月22日）**
**○基準価額の推移**

**○1万口当たりの費用明細**

(2014年7月23日～2015年7月22日)

項目	金額	比率	項目の概要
(a) 信託報酬 ( 投信会社 )	15円 (12)	0.140% (0.107)	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等の対価
( 販売会社 )	( 1 )	(0.011)	分配金・償還金・換金代金支払等の事務手続き、交付運用報告書等の送付、購入後の説明・情報提供等の対価
( 受託会社 )	( 2 )	(0.022)	投資信託財産の保管・管理、運用指図の実行等の対価
(b) その他費用 ( 監査費用 )	0 ( 0 )	0.003 (0.003)	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 ファンドの決算時等に監査法人から監査を受けるための費用
合計	15	0.143	
期中の平均基準価額は、10,489円です。			

(注) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 消費税は報告日の税率を採用しています。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

以下のデータは、日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）の主要投資対象である日本短期債券マザーファンドの内容です。

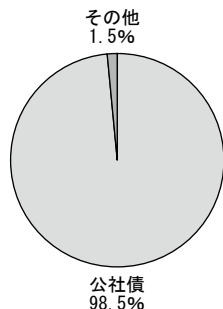
○上位10銘柄 (2015年7月22日現在)

銘柄名	業種／種別	比率
第123回利付国債（5年）	国債証券	7.6
第122回利付国債（5年）	国債証券	6.4
第121回利付国債（5年）	国債証券	3.8
第382回東北電力	普通社債券	2.7
第409回中部電力	普通社債券	2.6
第10回三井住友銀行（劣後特約付）	普通社債券	2.6
第6回みずほ銀行（劣後特約付）	普通社債券	2.6
第5回オーストラリア・コモンウェルス銀行	普通社債券	2.6
第416回九州電力	普通社債券	2.6
第8回オーストラリア・ニュージーランド銀行	普通社債券	2.6
組入銘柄数	47銘柄	

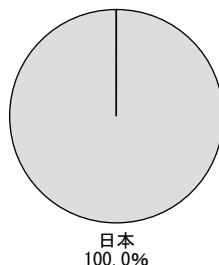
(注) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

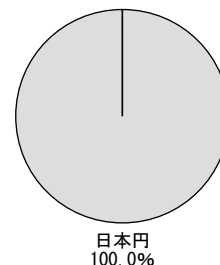
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 資産別・国別・通貨別配分のデータは2015年7月22日現在のものです。

(注) 比率はマザーファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。



<代表的な資産クラスの指数の著作権等について>

○東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

東証株価指数（TOPIX）は、株式会社東京証券取引所（株東京証券取引所）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利・ノウハウ及び東証株価指数（TOPIX）の商標又は標章に関するすべての権利は株東京証券取引所が有しています。なお、本商品は、株東京証券取引所により提供、保証又は販売されるものではなく、株東京証券取引所は、本件商品の発行又は売買に起因するいかなる損害に対しても、責任を有しません。

○MSCI コクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）、MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

MSCI コクサイ・インデックスおよびMSCI エマージング・マーケット・インデックスは、MSCIが開発した指数です。同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCIに帰属します。またMSCIは、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

○NOMURA-BPI 国債

NOMURA-BPI 国債は、野村証券株式会社が公表している指数で、その知的財産権およびその他一切の権利は野村証券株式会社に帰属しています。

○シティ世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

シティ世界国債インデックスは、Citigroup Index LLCの知的財産であり、指数の算出、数値の公表、利用など指数に関するすべての権利は、Citigroup Index LLCが有しています。

○JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックスーエマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド（円ベース）

JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックスーエマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイドは、J.P. Morgan Securities LLCが公表しているインデックスであり、その著作権および知的財産権は同社に帰属しています。



## FRANKLIN TEMPLETON INVESTMENTS

フランクリン テンプルトン インベストメンツは、創業以来  
ベンジャミン・フランクリンの肖像画をロゴマークとしております。  
創業者ルーパート・H・ジョンソン Sr. は、  
“With money and financial planning, prudence comes first.”  
(お金を増やそうとするときに一番大切なのは、用心深さである。)  
というベンジャミン・フランクリンのビジネス哲学に深く感銘し、  
アメリカ建国の父でもあり、偉大な科学者、  
そして優れた投資家でもあった彼の名を社名に冠しました。  
ベンジャミン・フランクリンの肖像画を用いたロゴマークは、  
ご投資家の皆様にとって、  
フランクリン テンプルトン インベストメンツの資産運用サービスに対する  
信頼と安心の象徴となっております。